

統合新校建設検討資料

1 これからの学校施設を考える上での視点

(1) センチュリースクール

- ・ 100年間十分機能できる学校に。
- ・ 学校教育をめぐる今日的な課題を理解し、計画に反映させるとともに、変化に対応できるフレキシビリティをもたせる。

(2) 高機能な教室空間の計画

- ・ 「多様な集団」に対応できる計画。例として、一斉指導（学級・学年）、少人数指導（習熟、興味・関心）、個別指導（マンツーマン、一人学び）、生徒と地域人材との集団、小中連携などの他校の児童・生徒との交流のためのスペース等。

(3) エコスクール化、省エネ

- ・ 環境問題の深刻化に伴う自然資源活用の考え方が進んでいる。
太陽光、風力等の新エネルギーの活用
屋上・壁面緑化、校庭の芝生化
学校建築や学習環境そのものが教材となることの意義

(4) ユニバーサルデザイン

- ・ 「誰も」が快適に使えるユニバーサルな施設空間づくりへ。
- ・ 学校開放を想定し、開放ゾーン、非開放ゾーンを分割して計画する必要もある。

(5) 安全（防犯・耐震化）

- ・ 敷地内において死角となる場所を極力なくす。（建物配置・監視システム）
- ・ 災害時の避難場所

2 杉並区の目指す学校

「杉並区立小中学校適正配置基本方針」から

これからの学校にかなう施設とします。

(1) 高機能で多機能な学習環境を整備します。

児童・生徒の主体的な活動を支援するため、児童・生徒の持つ豊かな創造性を発揮できる学習環境の整備に努めるとともに、各学校の地域性等を考慮した個性や特色のある学校づくりに努めます。また、一斉指導による学習のほか、チームティーチング(TT)による学習や個別学習、少人数指導による学習、グループ学習など、多様な学習・学習形態を考慮するとともに、幼稚園や小学校、小学校と中学校の連携を一層重視した教育の推進や教育課程の弾力化等を視野に入れた施設にします。

(2) ISO14001を充実し、エコスクール化を進めます。

区教育施設における環境マネジメント国際規格(ISO14001)を継続的かつ積極的に運用し、環境への負担軽減を図ります。また、屋上や校庭の緑化、ビオトープの設置など、学校生活の中で、子どもたちが自然に親しみ、環境について気付いたり、考えたりすることのできる、学校そのものが環境の教材となるエコスクールを推進します。

(3) 健康で、かつ安全で豊かな施設環境を確保します。

交流や憩いの場としての施設づくりに努めるとともに、児童・生徒の健康と快適性に配慮した施設計画とします。また、安全性の高い学校を目指し、不審者の侵入防止や犯罪防止について十分な対策を講じながら、ユニバーサルデザインに努めるとともに、資源の再利用や自然環境等に配慮した施設にします。

3 杉並区教育ビジョンと学校施設

杉並区教育ビジョンは、21世紀を見据えて杉並区の目指す教育、教育改革の方針を明らかにし、平成22年度を目標に重点的に取り組む施策の方向を示しています。

(1) 学力・体力の向上

- ・ 一人一人を大切にすきめ細かな学習指導を推進するためには、少人数指導が実現できる空間の確保や、主体的な学習を深める環境として、図書館のメディアセンター化による施設の充実等が必要となる。
- ・ 食育を推進していくためには、稲作体験や収穫物を用いた調理学習等、食にかかわる体験的な学習が行える環境が必要である。

(2) 豊かな人間性の育成

- ・ 徳育の推進のためには、クラスを越えた交流の場、学年の集まりの場、少人数でいられる場、一人でいられる場など、多様な編成の集団が生活できる空間が必要である。
- ・ 温かみを感じる木製の施設、ゆとりある教室空間等の環境を整備する必要がある。
- ・ 郷土に対する愛着や誇りをはぐくむ教育を進めていくためには、地域の郷土資料に触れ、学ぶことができる環境を整備していく必要がある。
- ・ 安全防災教育の推進のためには、まず生徒の安全が確保され、安心して学ぶことができる確実なセキュリティーによる校舎が必要である。これらの施設が生徒の教材ともなる。

(3) 学校の教育力の向上

- ・ 教員の授業力や指導力の向上を図るためには、教員の専門性を高めるとともに、施設環境の面から教師の授業力向上のアプローチを図る必要がある。キーワード「校舎が変わる、教師が変わる、授業が変わる」
- ・ 特別支援教育を推進していくためには、支援を要する生徒が満足感や自己有用感を得ることができる学びの空間が必要である。
- ・ 小中一貫教育を推進していくためには、児童・生徒がともに学ぶことのできるフリースペース等の交流の場が確保される必要がある。

(4) 教育環境の設備充実

- ・ エコスクール、学校IT化、学校安全対策の充実を実現する校舎環境が望ましい。

(5) 活力ある地域づくり、豊かな地域づくり

- ・ 学校が地域の学習センターとして地域住民に活用されるとともに、地域が日常的に生徒の学習活動にかかわることができるよう、地域に開かれた校舎設計が求められる。
- ・ 多くの住民が一同に会して学ぶことのできるような施設も必要となってくる。